

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月7日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673100113
法 人 名	医療法人 木村外科内科
事 業 所 名	グループホームきむら
所 在 地	鹿児島県鹿児島市石谷町2105番地3 (電 話) 099-278-0058
自己評価作成日	令和3年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	N P O 法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・高台に位置し、遠くに矢筈岳を望み景観がよく四季を感じながら入居者の皆様は生活しています。
- ・入居者の方々がそれぞれに役割を持ち、のんびりと生活されています。
- ・建物は平屋建てで、すぐに外へ出られるので散歩やお茶会など天気のいい日は日光浴が出来気分転換を図れます。
- ・同敷地内に24時間緊急対応の医療機関が隣接しており入居者様の個別の医療ニーズや急変等にも対応している為ご本人、ご家族も安心している。
- ・関係機関、民生委員、ボランティアの方々と協力を頂き地域との交流が出来ている。(コロナ禍で交流が少なくなっている。
- ・地域に根差した施設を目指している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体医療機関に隣接して建てられており、月2回の訪問診療や24時間の医療連携体制が整っていることから、利用者・家族の安心となっている。
- ・コロナ禍の為、地域行事への参加自粛やボランティア受け入れの中止などで地域との交流は困難な状況である。その中で文化祭への出展を目指して作品作りに励み、少しでも地域との繋がりを継続できるよう取り組んでいる。
- ・主食と朝の味噌汁以外は厨房からの配食を受けており、職員はケアに集中できる環境となっている。コロナ禍の中での利用者の食べる楽しみにも配慮して、庭でのお茶会や月1回おやつと一緒に作ったり、弁当の日を設ける等、工夫している。
- ・法人では資格取得や外部研修への補助もあり、職員の質の向上が図られている。また、法人内異動や就業環境の整備等、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、入社時に必ず理念を理解してもらうよう、オリエンテーションの中で説明をしている。基本理念については、和室・玄関・トイレ等D5:D32に掲出し、意識付けを行っている。	理念を玄関・和室・トイレに掲示し、パンフレットにも掲載している。目につきやすい場所に掲示し、理念の意識付けをしており、ミーティング時にも確認し、ケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地域の公民館長や地域の方々と連携して、地域行事・運営推進会議への参加・地域周辺への挨拶まわり・ボランティア等の受入を行っていますが、コロナ渦により、地域敬老会・地域行事の参加等、控えております。	町内会に加入しているが、コロナ禍の為、地域行事への参加は控え、ボランティア受け入れも中止しております、地域との交流は困難な状況である。ただ、文化祭には出品予定で作品を作製中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	例年、地域の方々や入居者、ご家族、職員の交流を深めるために運営推進会議、食事会を開催しているが、本年度はコロナ渦により、運営推進会議の開催を控えております。そのため、ご家族につきましては、グループホームだよりを毎月発行して情報発信をしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、運営推進会議の開催は控えておりますが、スタッフ会議で、取組状況についての評価・反省・周知を行ってサービス機能向上に努めています。	コロナ禍の為、書面開催となり、地域包括支援センター等に資料を持参し、情報収集や意見交換を行っている。公民館長と民生委員は交代の武連絡ができず、今後、資料を送付する計画である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍により、介護相談員等への連携については控えておりますが、入居者様の生活支援状況について、の報告・相談等は、必要に応じて電話により、対応しております。報告・相談等の連絡に努めて業務品質向上を目指しています。	本庁には、電話や報告に出向いて連携を図っており、生活保護担当者の来訪もある。支所の担当者とは、相談に出向いて協力関係を築いている。市のリモート研修に参加し、情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ、勉強会などで議題として取り上げて意識向上を図っている（職員トイレに掲示）。また、身体拘束委員会においては、身体拘束についての理解を深める周知等を行っている。そして、玄関・非常口の施錠について、日中帯は行っていない。	指針を作成しており、委員会を毎月、研修会を年2回実施している。スピーチロック防止のため、利用者の目線で話すようにしており、日中は玄関は施錠せず、外に出て行く利用者には散歩に同行し、行動を制限しないケアに努めている。法人内職員の目配り・協力もある。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、職員ミーティングで、法律を含めた勉強会を行い、施設内における虐待を根絶するように意識統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度等についてはミーティング等で勉強会を実施（日常生活自立支援、成年後見人制度）して理解を深めている。対応が必要な時には、管理者指示のもと、関係各所との連絡を密にして、適確な対応ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム見学や入居相談時、また契約締結前に、契約書・重要事項等を十分に説明して入居を検討して頂いている。コロナ禍で電話での説明を行ったりして同意を得ている。解約・改定の際には、事前に書面郵送・電話を行い、ご理解を頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様にご本人の思いを代弁して頂けるように、電話による要望等の聞き取りを行い、要望等があった場合には早急に改善策を検討している。コロナ禍で面会を控えて頂いたりしたので面会以外の意見はなかった。	本人には、日常の会話で要望等を聞いて対応している。家族には電話や来訪時に要望等を聞いている。家族からの要望で受診・持参の衣類・日用品の使用について等、その都度要望に沿って対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催の職員ミーティングの中で、職員それぞれの業務内容やケア方法等の意見交換・情報共有を行い、業務サービスにおける品質向上を図っている。また、欠席者に対しては、会議録・申し送りノートを活用して情報共有を実施している。	管理者は、ミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けており、設備の修理は法人に依頼し、ケア方法の提案は試行して検討する等、結果を全員で共有している。個別相談は、管理者が対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務環境における聞き取りを行い、能力に合わせた勤務指定、介護・子育て世代に合わせた勤務体系を組んで、職場環境改善に取り組んでいる。また、突発時の勤務変更も柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	入職時におけるオリエンテーション記録報告書の作成、行事・全体会議等の報告書の作成を依頼して、業務内容に精通するように指導している。また、マニュアル等を活用して、経験の浅い職員でも業務に対応できるようにしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	例年、グループホーム協会や地区の勉強会に参加しているが、コロナ禍により他介護施設への訪問等も自粛している。他施設等の情報収集については、書面・インターネットによる情報を取得して、サービス品質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が入居するまでにご家族からの面談、電話で情報を得、ご家族の思いや考え方に対しての聞き取りを行い、ご本人が希望する生活を送れるような助言を行い、ご本人が安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の入居後の生活についての説明、グループホームの理念、重要事項等を説明し、ご家族の要望等の情報収集を行う。また、ご家族との良好な関係を維持するために、随時ご本人の生活状況を連絡して、良好な関係性が築けるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要と思われる入居者に対しては、医療・各専門職・ご家族等からの情報収集を行っており、支援内容を明確化して緊急時に適切な対処を行うように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事（お正月、ちまき作り、焼き芋、野菜の栽培等）は、入居者の方々と職員が、飾り付けや作り方を教え合いながら行っている。また、入居者様の個性や能力に合わせた役割分担を行い、出来ることをお願いして、楽しい生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍による面会制限のため、近況等は電話にて状況報告を行っている。入居者様のご希望があれば、ご家族への電話による対話、手紙作成の補助を行い、ご家族との関係が疎遠にならないように支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により関係継続が厳しい状況にあるが、ご本人と関係が深い方々には、電話やホーム便りを郵送して近況、状況の案内をするとともに、電話や手紙を頂けるように支援をしている。	家族との窓越し面会や電話での交流を支援し、事業所からは電話や毎月「グループホーム便り」と写真を送付して近況を報告する等、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内では入居者の方々が会話、レクリエーションで交流できているが。コロナの前はユニット間で入居者同士が自由に行き来したり、レクリエーション・各種行事も合同で行って、入居者同士の触れ合いの機会を多く作っていたが、コロナ後は入居者の移動はせず職員もできるだけ少なくしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院先等面会、訪問していたが、ご本人やご家族とも良好な関係を継続できるようにしていたが、コロナ禍で面会、訪問を控え電話での連絡にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方々の趣味・趣向を把握して、興味を持たれる話を引き出し、その聞き取り内容を職員間でも情報共有しながら、ホーム生活で希望や意欲を持って生活できるよう支援している。	日常の会話で要望等を聞き、本人がパズル等のやりたいことに取り組めるよう支援している。困難な場合は、家族や入居前のサービス事業者・職員からの情報を参考に話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・主治医・担当ケアマネジャー等の聞き取り（ご本人の希望に沿った生活についての情報収集）を行い、その情報をもとに、入居者の行動や言動に対する理解を深め、職員間における情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方々の生活について、その方に合った日課・役割・運動などの声かけをしている。またユニット会議で、できること・できなくなったことや精神面についても観察しながら、その方に適するケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望内容の聞き取りを実施して、職員の意見交換を行い、また必要時にはカンファレンスを実施して、その方向性や情報共有を図ってモニタリング・介護計画を作成している。	本人や家族から要望を聞いている。ミーティング時に居室担当等の職員の意見を聞いて検討し担当者会議を実施し介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎及び状況変化時に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の一日の様子や出来事、状態等については、個別の生活記録簿記入している。また、介助に必要な情報は、職員間で共有して支援経過の記入や介護計画の見直しに活用している。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のリハビリ支援や年間行事・誕生会の参加や、ご家族が県外在住の方に対しては、必要な品の買い物代行、他科受診の支援など、ご家族の状況に合わせた支援を実施している。			
29	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や公民館・地域の方々の支援を得ながら、状況によってはコロナ感染防止策を講じて地域行事への参加活動を行っている。また、まちづくり協議会への加入もしている。			
30 11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木村外科内科と医療連携の契約を行っており、医師の訪問診療や状態変化時の相談・助言を受けている。また、必要時には他科受診やご本人・ご家族の要望に合わせて主治医との連携を図り、適切な医療支援を行っている。	契約時に希望を確認し、全員が母体医療機関をかかりつけ医に希望している。月2回の訪問診療や24時間の医療連携、他科受診により適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働  看護職員は、日々の業務を通じて得られた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	随時医療機関との連携を行い、介護職員は入居者の方が適切な看護が受けられるように、医療連携看護師に状況報告や医療面についての相談を行い、また対応方法や専門的な指導を受けながらケアに従事している。			
32	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療でできるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態把握のために、ご本人・ご家族との面談（希望、要望等の聴取）や主治医（面談に同行）や看護師、他の専門家の意見を仰ぎながら、退院後の生活準備を職員とともにを行い、その後の医療や他専門家のサポートを受けられる体制を整えている。			
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ホームにおける重度化や終末期の対応については、ご本人やご家族の要望に合わせて可能であることを説明している。また、入居前・入居時・入居後（状態変化等）における対応の説明や方針を、その都度実施している。また、急変時の延命治療について担当者会議等で確認、再確認を行っている。	契約時に重度化の場合の対応について説明し、延命治療についても同意を得ている。重度化の場合には、主治医から家族への説明に管理者が同席し、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、最終的には入院希望が多い。		
34	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、緊急時対応マニュアルに沿って対処しており、医療機関との連携体制も確立している。スタッフ会議の時には、緊急時の迅速な対応についての研修を実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練（昼・夜想定）や他事業所と連携して避難経路の確認、消化器の使用方法、火災通報装置の使用方法の指導がある。また、非常災害マニュアルを作成して、いつでも職員が閲覧できるようにし、非常時の対応をスタッフ会議で周知してマニュアルの把握等を行っている。	年2回の避難訓練を昼夜想定で実施している。今年度はコロナ禍の為、消防署や住民の参加は無く、事業所単独で訓練を行っている。緊急連絡装置に前公民館長の登録協力を得ていたが、現公民館長には今後協力依頼の予定である。災害用の備蓄は、法人で水・食料等を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重しながらプライバシーに配慮した声かけを実施している。また、倫理規定や権利擁護についても全体ミーティング等で定期的に研修を行い、常に人権尊重を意識した対応を心がけている。	研修を実施している。相手の目線で丁寧に穏やかに話す、入室時や個別ケア時の声掛け、排泄・入浴介助時の羞恥心への配慮等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においての希望・要望の聞き取りを行い、ご本人の意思確認を把握しながら、ご自分のペースで行動・実践ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前に自宅での暮らしやご本人・ご家族からの聞き取りを行い、生活習慣を把握して、ご本人のペースで生活できるように支援を実施している。入居後はご本人・ご家族ともに連携して、生活の質の向上に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人が自宅で使用されていた物や好きな衣類をご家族に準備して頂き、着替えの介助も行っている。外出・行事・誕生日は、ご本人やご家族のお気に召す衣類を着用して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養指導時に管理栄養士と相談して、季節に合わせたメニューの打ち合わせを行い、ご本人の食べる能力や状態に合わせた食事形態(キザミ食・ミキサー食)に対応して、楽しい食事の時間を過ごせるように支援している。	主食と朝の味噌汁以外は厨房からの配食を受け、個々に応じた食事形態にして提供している。誕生会のケーキや季節の行事食・そうめん流し・夏祭りの屋台等、楽しんで食べてもらえるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後・10時・15時・食事中・入浴後に、またご本人が希望される時や健康状態に合わせて水分摂取を促している。栄養バランスの保持については、主治医・管理栄養士の指導により健康状態を維持できるように支援している。			
42	○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行ってできる方・一部介助の方・全介助の方がおり、個々の口腔状態や嚥下状態に合わせて、各人が清潔な口腔状態を維持できるように介助している。			
43 16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ利用ができる方への対応は、羞恥心に配慮しながら声かけを行い、トイレ誘導・排泄確認・後始末等、身体状態を確認して、気持ち良く利用できるように支援している。	チェック表で把握したパターンの時間や素振りで声掛け誘導を行い、立位が取れる場合は、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。夜間は、必要に応じてポータブルトイレの使用やパット交換もしている。		
44	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目標にして、水分補給・食事・マッサージ・運動等を工夫しながら排泄を促している。また、医療機関との連携体制により、便秘傾向の方は牛乳、水分を多く摂ってもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	気持ち良く入浴ができるように、また、プライバシーも考慮して個別に入浴介助を行っている。汚染等により体が汚れた場合には、直ぐに入浴できるように支援している。	週3回午前中を基本に実施し、希望等で柔軟に対応している。必要時の2人介助や希望で同性介助、汚染時はシャワー浴を行つて、気持ち良く過ごしている。拒否の場合、タイミングを見て声かけし入浴している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時等の生活習慣を考慮して、昼寝が必要な方には休息を促している。また、就寝時間についても、ご本人のペースに合わせて就寝を促し、就寝中は巡回を行つて、安心して入眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師・薬剤師からの服薬助言を頂き、個別の服薬ファイルで服薬管理を行い、服薬介助・移動・保管等も2名体制で行い、処方の事前準備も3回の確認作業で確実な管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から生活習慣・趣味等を聞き取り、個性に合わせたホーム内での役割(洗濯物たたみ、計算問題、クロスワードパズル等)を行つて頂き、季節野菜、花を植え収穫、花見をし楽しみ、分転換ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホーム行事や法人行事、他科受診、外出・外泊など、ご本人の意向を確認しながら外出する機会を設けているが、コロナ禍により外出は制限している。また、地域行事においても本年度は参加自粛をしている。	天気の良い日には、希望者で近隣の散歩をしており、庭でお茶会や焼き芋をして楽しんでいる。コスモスや桜の花見のドライブにも行っているが、地域行事への参加は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は2名おられる。買い物等を頼まれた時ご家族、成年後見人に連絡後スタッフが買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	コロナ禍による面会制限の中、ご家族とのコミュニケーションツールの一つとして、どなたでも電話ができるように対応している。手紙を書ける方に対しては、文面作成の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた居室・ロビー・リビングの飾り付けを行い、空調環境を整えて、共同生活や個人の趣味に合わせた環境作りに配慮している。ご家族からのお花の提供やホーム前の花壇も、季節の花を定期的に植え替えて季節感を感じ取れるように配慮している。	ゆったりと広いリビングに、景色がよく見える位置にテーブルを数ヶ所配置し、ソファも置き、利用者が気の合う人や一人でくつろげるよう工夫している。季節の飾り付けがされた室内は、換気を十分に行い、空気清浄機やエアコンで過ごしやすい室内環境に調節されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	リビングで新聞を読んだり、テレビやラジオの視聴など、入居者の方が思い思いの時間を過ごせるように配慮している。また、個人の居場所も要望を伺って、できる範囲内で対応している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には自宅で使用していた家具等を置いたり、ご家族の写真や個人の作品などを置いて、自宅を感じられるようように配慮している。また、より良い環境改善のために、スタッフ会議内で協議を行っている。	居室にはベッドやタンス・エアコンが備えてあり、本人が使い慣れた寝具やタンス・テレビ・ソファ・テーブルを置いたり、写真やぬいぐるみを飾ってくつろげるよう工夫している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	ホーム内は全てバリアフリーで、車椅子も自由に自走できる広さであり、自力歩行の方も手すりを利用している。居室やトイレの場所は、プレートを作成して認識しやすく、自分のペースで過ごせるように声かけを行っている。。歩行不安定な方は、動線を確保して転倒予防に努めている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

		1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
		1 ほぼ全ての利用者が
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	2 家族の2/3くらいと
		3 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		2 数日に 1 回程度ある
			3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
			2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない